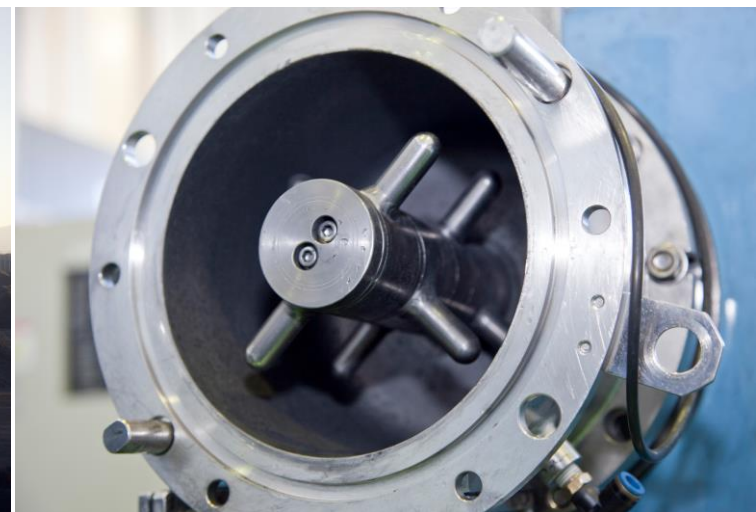
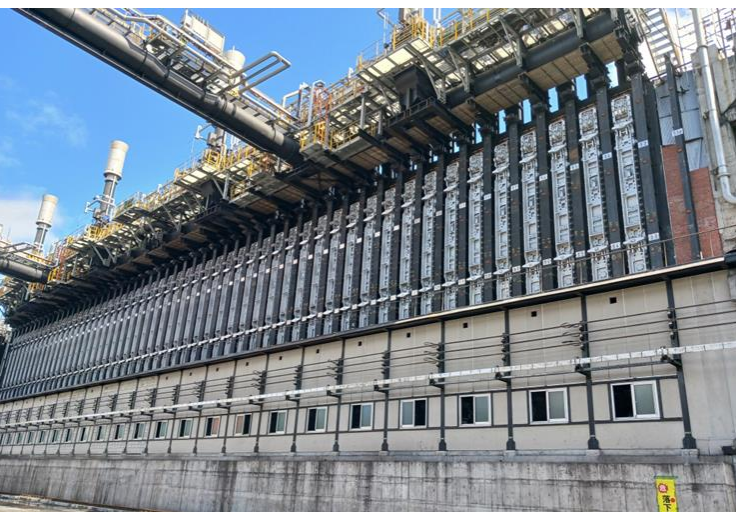


2025年3月期 第2四半期（中間期） 決算説明（IR）資料



2024年11月22日

産業を支える、未来を動かす。

 **日本コークス工業**

証券コード3315：石油・石炭製品

第1部

2025年3月期第2四半期決算 3P

1. 決算ハイライト
2. セグメント別業績
3. 連結貸借対照表

第2部

2025年3月期業績予想 9P

1. 業績予想ハイライト
2. セグメント別業績予想

【参考】

- ・業績の推移（連結）
- ・原料炭価格(FOB豪州)および中国コークス市況の推移

第1部 2025年3月期 第2四半期決算

1. 決算ハイライト

(単位：億円)	23/3月期 2Q		24/3月期 2Q (前期)		25/3月期 2Q (当期)		前期比増減	
	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	金額	増減率
売上高	942	-	767	-	477	-	▲290	▲37.8%
営業損益	▲22	-	29	3.7%	▲21	-	▲50	-
経常損益	▲37	-	25	3.2%	▲27	-	▲52	-
当期純損益 (※)	▲27	-	13	1.6%	▲22	-	▲35	-

※ 親会社株主に帰属する当期純損益

【事業環境】

- 我が国の経済状況は、雇用・所得環境の改善による緩やかな回復が続くと期待される一方で、中国経済の先行き懸念や欧米の金利高水準などにより、原材料価格の変動や海外経済の下振れリスクなどがあるなかで推移。
- 当社グループでは、北九州事業所 2A コークス炉更新に伴う 3 炉団操業のなか、既存コークス炉に生じたトラブルにより、上期は生産数量が計画以上に減少し、製造原価が悪化。
一方、9月下旬に 2A コークス炉の更新工事が完了、稼働を開始し、今後は生産数量回復を見込む。

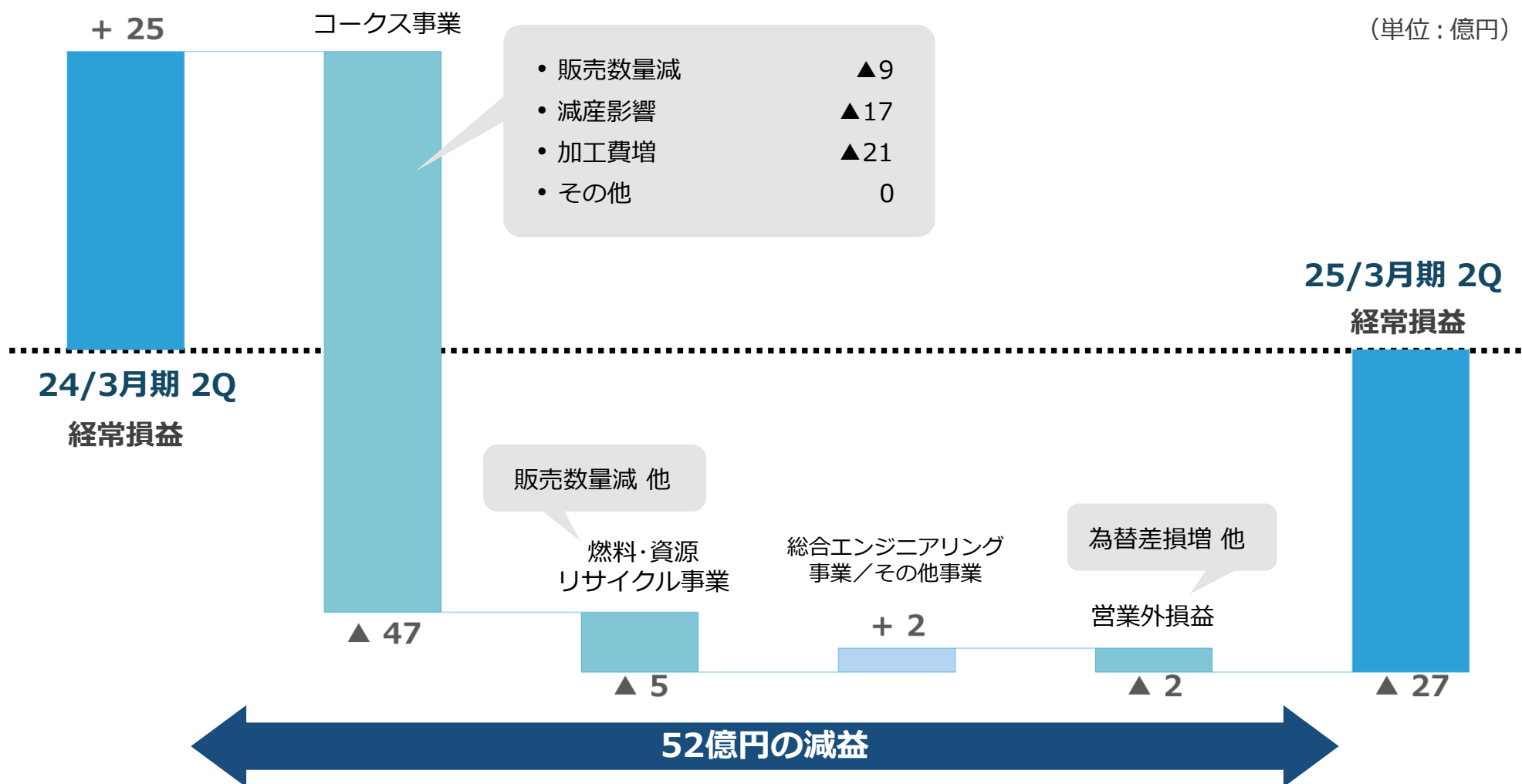
【売上高】

- 既存コークス炉のトラブルによる生産・販売数量減少（コークス事業）および一般炭販売数量の減少（燃料・資源リサイクル事業）を主因として、前期比 290 億円の減収。

【営業損益】

- コークス事業において、上記の減収および減産による固定費の悪化や、修繕費・電力費等の加工費増加により採算が悪化した影響が大きく、営業赤字に転落。

- 2025年3月期第2四半期の連結経常損益は、前年同期に比べ、コークス事業における減産影響および修繕費や電力費等の加工費の増加の影響が大きく、52億円悪化の▲27億円となりました。



2. セグメント別業績

(単位：億円)	24/3月期2Q (前期)	25/3月期2Q (当期)	増減
コークス事業			
売上高	492	279	▲213
営業損益	8	▲39	▲47
営業利益率	1.6%	-	-
燃料・資源リサイクル事業			
売上高	218	141	▲77
営業損益	21	16	▲5
営業利益率	9.6%	11.3%	1.7%
総合エンジニアリング事業			
売上高	39	40	1
営業損益	5	8	3
営業利益率	12.8%	20.0%	7.2%
その他			
売上高	18	17	▲1
営業損益	3	3	▲0
営業利益率	16.6%	17.6%	1.0%
全社共通費用	▲8	▲9	▲1

主要事業の状況（単体）

(単位：千トン)	24/3月期2Q (前期)	25/3月期2Q (当期)	増減
コークス			
生産数量	634	430	▲204
販売数量	678	371	▲307
うち輸出塊	52	0	▲52
燃料販売			
販売数量（※1）	590	403	▲187
コールセンター取扱数量（※2）	352	474	122

※1 一般炭および石油コークスの合計

※2 コールセンター取扱数量は揚陸ベース

コークス事業

<売上高>

2Aコークス炉更新工事（2024年9月稼働開始）に伴う3炉団体制の中、他の既存炉においてトラブルが続き、生産・販売ともに数量が落ち込み、前年同期比で約4割の減収。

<営業損益>

販売数量減や減産に伴う割高固定費、修繕費・電力費等の加工費増加により採算が悪化し赤字転落。39億円の営業損失を計上。

燃料・資源リサイクル事業

主要顧客向けの販売数量減少等により、前年同期比で減収・減益。

総合エンジニアリング事業

売上高は前年同期並みで推移、化工機事業の利益率向上により増益。

3. 連結貸借対照表

(単位：億円)	24/3月期末	25/3月期 2Q末	前期末比 増減		24/3月期末	25/3月期 2Q末	前期末比 増減
流動資産				負債			
現金預金	62	49	▲13	仕入債務	207	107	▲100
売上債権	148	100	▲48	借入金	459	570	111
棚卸資産	427	404	▲23	その他	178	209	31
その他	7	6	▲1	負債 計	844	886	42
流動資産 計	644	559	▲85	内 流動負債	(682)	(446)	(▲236)
固定資産				純資産			
有形固定資産	704	790	86	資本金・資本剰余金	87	87	－
その他	59	69	10	利益剰余金等	476	445	▲31
固定資産 計	763	859	96	純資産 計	563	532	▲31
資産 計	1,407	1,418	11	負債・純資産 計	1,407	1,418	11
				自己資本比率	40.0%	37.5%	
				D/Eレシオ	0.82倍	1.07倍	

- ・ 2Aコークス炉更新等により固定資産が増加した一方で、売上債権・棚卸資産は減少。
- ・ 設備投資費用をはじめとした借入金の増加により負債が増加。前期末（2024年3月）と比べ、D/E比率は1.07倍に上昇。

(参考) 2Aコークス炉改修工事完了

2024年9月下旬、約1年7カ月の工期を経て、北九州事業所2Aコークス炉更新工事が完了、稼働を開始。4炉団体制での操業を再開したことにより、2024年度下期以降の生産数量の回復と製造コスト改善を見込む。

<工事概要>

北九州事業所のコークス炉（4炉団、総生産能力200万トン/年）のうち、老朽化の進む2A炉（1980年稼働）につき、更新を実施。

<投資額>

約140億円規模

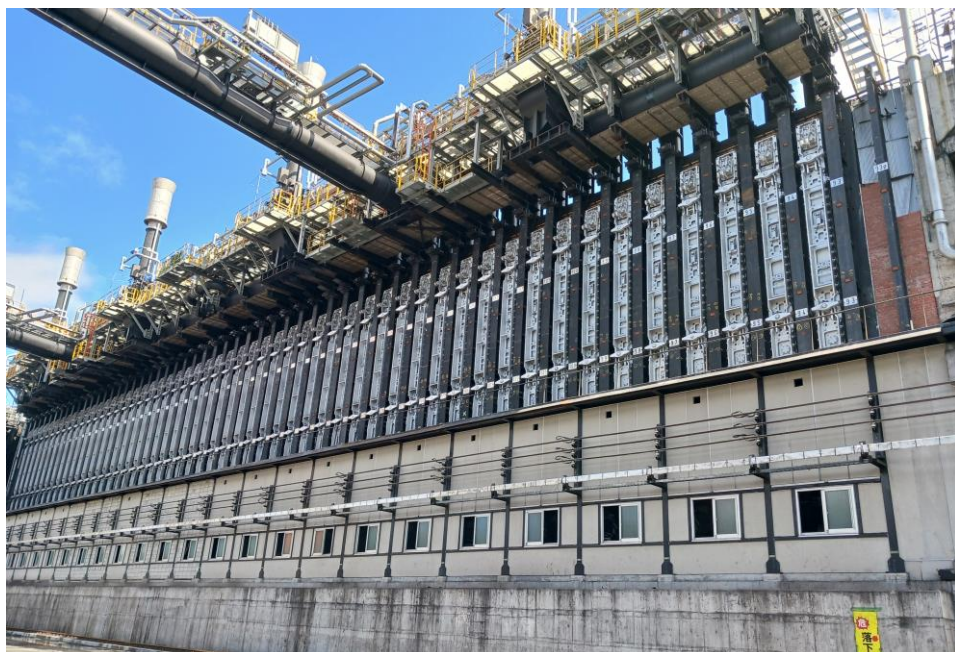
<工事方法>

パドアップ方式（炉の基礎部分を残し、上部煉瓦を積み替える工事方法）

<投資の効果>

品質安定化、コークス生産性の向上（コスト削減）、エネルギー消費原単位の改善によるCO₂排出量削減、発塵防止（環境対策）等。

更新が完了した2A炉



初窯出しの様子



第2部 2025年3月期業績予想

1. 業績予想ハイライト

(単位：億円)	24/3月期（実績）		25/3月期（予想）		前期比増減	
	金額	売上高利益率	金額	売上高利益率	金額	増減率
売上高	1,351	—	1,187	—	▲164	▲12.1%
営業損益	44	3.3%	34	2.9%	▲10	▲22.7%
経常損益	36	2.7%	24	2.0%	▲12	▲33.3%
当期純損益（※）	19	1.4%	9	0.8%	▲10	▲52.6%

（※）親会社株主に帰属する当期純損益

【売上高】

- 2Aコークス炉パドアップ工事完了に伴うコークス製造・販売数量の回復を見込むが、上期の大幅な減収（上期実績477億円）影響が大きく、通期連結売上高は前期比164億円の減収予想。

【営業損益】

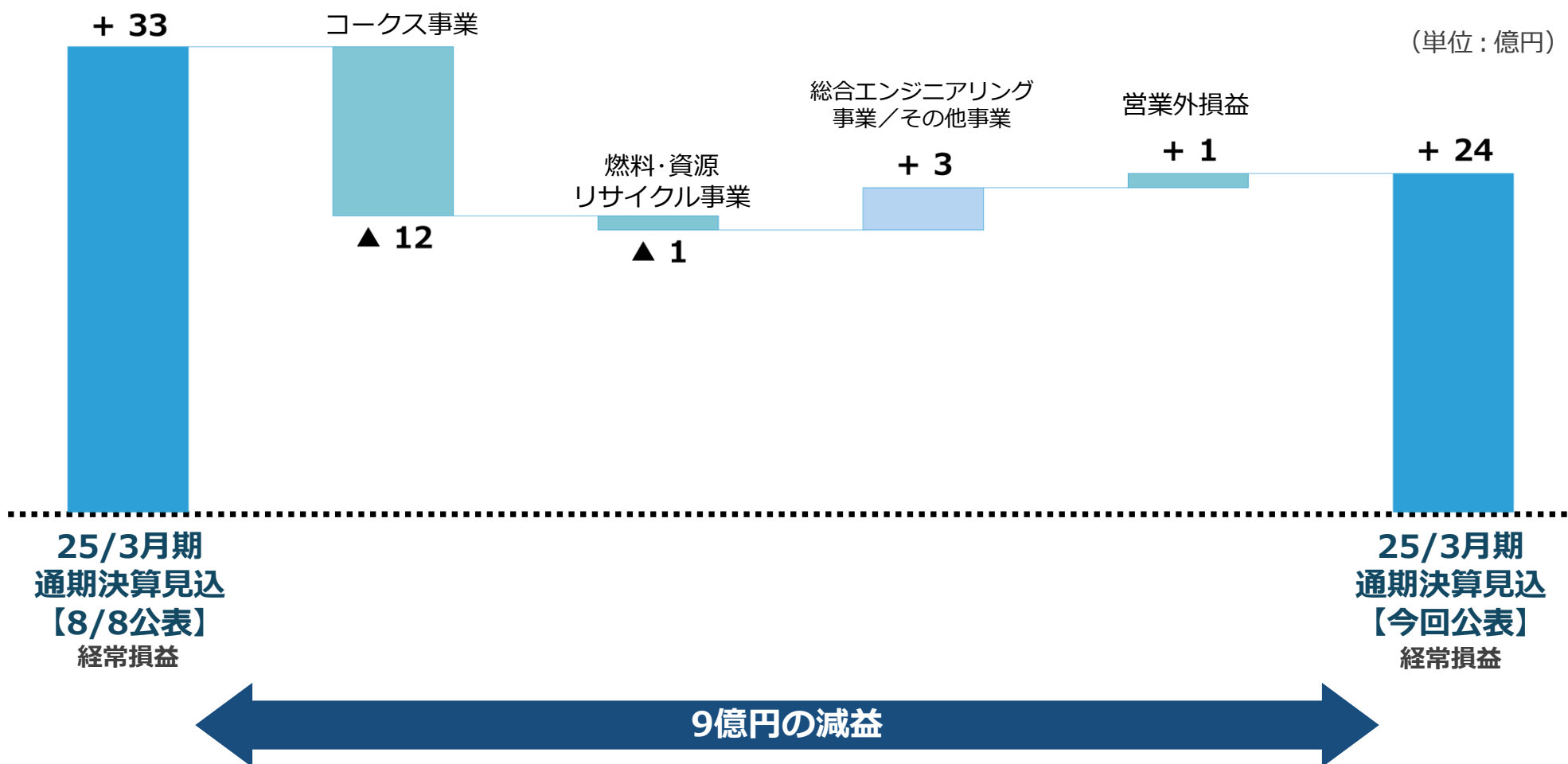
- コークス事業の売上高回復や、4炉団操業による製造コスト改善等により、上期の営業損失から黒字回復するものの、前期比では10億円の減益を見込む。

【経常損益・当期純損益】

- 経常損益は、営業利益悪化の影響により、前期比12億円の減益を見込む。
- 当期純損益は、経常利益悪化の影響などにより、前期比10億円の減益を見込む。

【参考】2025年3月期 通期連結経常損益（対前回公表値）

- 2025年3月期通期の連結経常損益は、コークス事業において、2Aコークス炉パドアップ更新工事が完了し、稼働を開始したものの、既存設備のトラブルによる生産量の減少などにより、前回公表時（2024年8月8日公表）より9億円減益の24億円となる見込みです。



2. セグメント別業績予想

(単位：億円)	24/3月期 (実績)	25/3月期 (予想)	増減
コークス事業			
売上高	838	782	▲56
営業損益	1	3	2
営業利益率	0.1%	0.4%	0.3%
燃料・資源リサイクル事業			
売上高	388	266	▲122
営業損益	37	25	▲12
営業利益率	9.5%	9.4%	▲0.1%
総合エンジニアリング事業			
売上高	88	99	11
営業損益	16	18	2
営業利益率	18.2%	18.2%	0.0%
その他			
売上高	37	40	3
営業損益	6	6	0
営業利益率	16.2%	15.0%	▲1.2%
全社共通費用	▲16	▲18	▲2

主要事業の状況 (単体)

(単位：千トン)	24/3月期 (実績)	25/3月期 (予想)	増減
コークス			
生産数量	1,092	1,340	248
販売数量	1,166	1,187	21
うち輸出 (塊)	52	99	47
燃料・資源リサイクル			
販売数量 (※1)	1,074	791	▲283
コールセンター取扱数量 (※2)	665	862	197

- ※1 一般炭および石油コークスの合計
 ※2 コールセンター取扱数量は揚陸ベース

コークス事業

<売上高>

上期売上高は279億円に落ち込んだが、2Aコークス炉の稼働開始により、下期は生産・販売数量が回復し、年度売上高は782億円を見込む。

<営業損益>

上記の売上高回復や、製造コスト改善により、上期の営業損失39億円から3億円の営業利益へと回復を見込む。

燃料・資源リサイクル事業

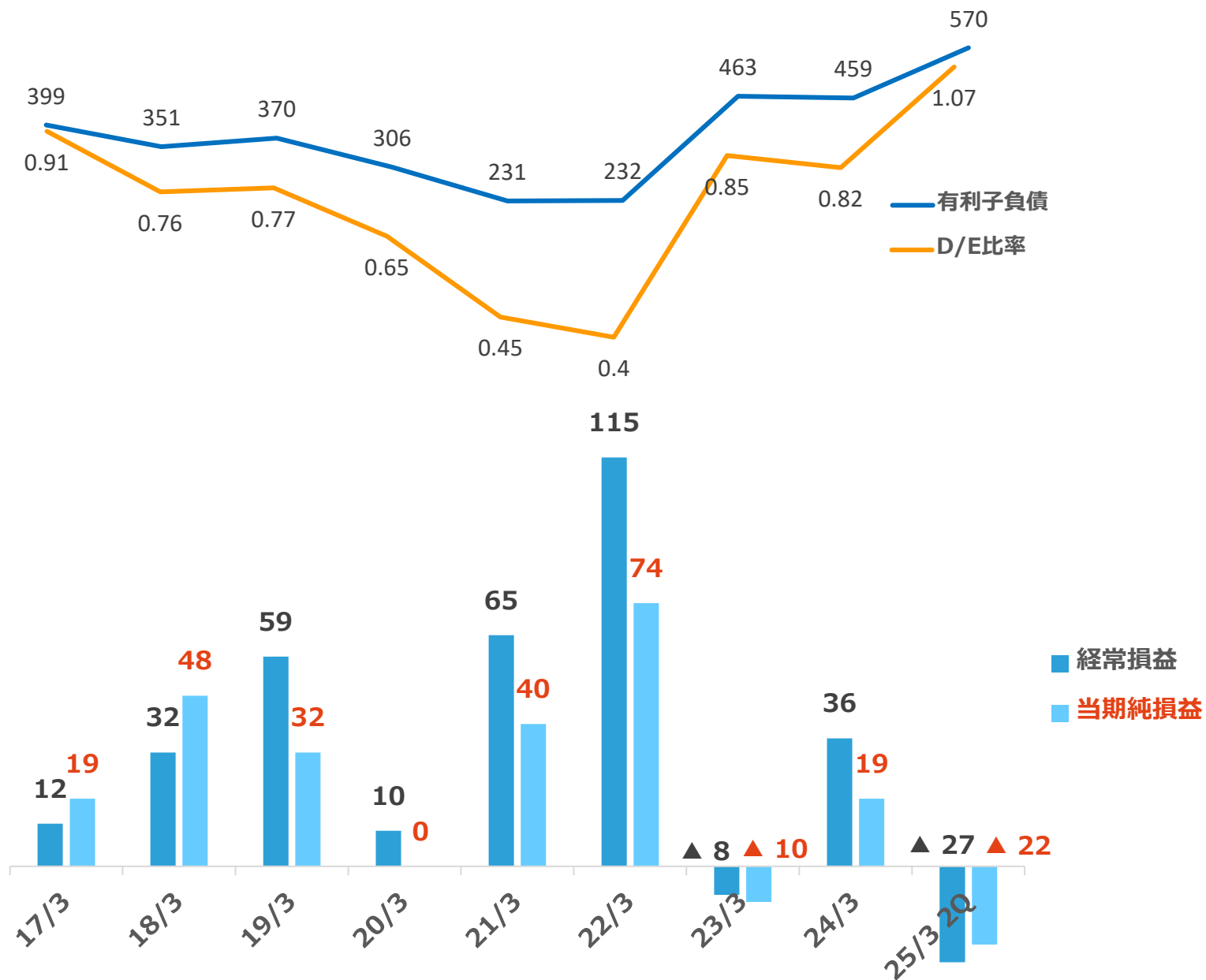
- 引き続き主要顧客の燃料転換による一般炭販売数量の減少を見込み、前期比で減収・減益を予想。
- 再生可能エネルギー（PKS等のバイオマスエネルギー）の取り扱い拡大に引き続き取り組み、収益向上を目指す。

総合エンジニアリング事業

- 化工機事業において、前期比で増収・増益を見込む。

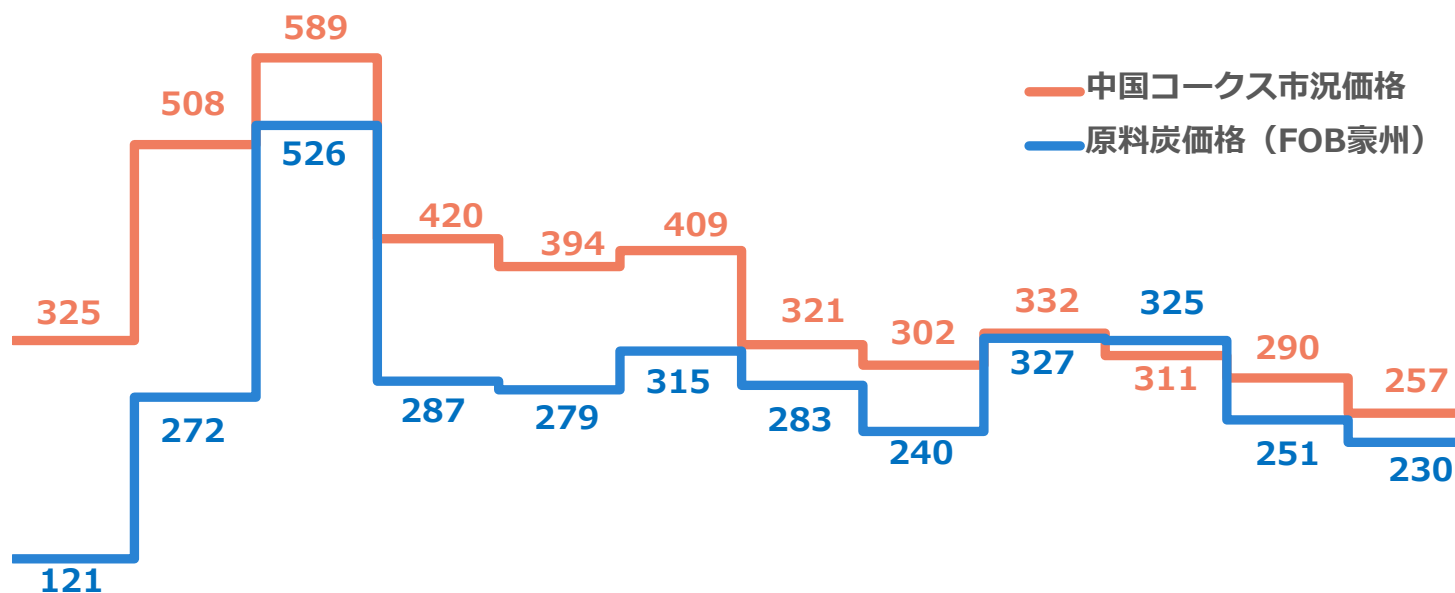
参考資料

業績の推移 (連結)



原料炭価格(FOB豪州)および中国コークス市況の推移

(単位：US\$)



	2020年度	2021年度	2022年度				2023年度				2024年度	
	平均	平均	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
コークス価格	325	508	589	420	394	409	321	302	332	311	290	257
原料炭価格	121	272	526	287	279	315	283	240	327	325	251	230

2022年度平均	コークス	453	2023年度平均	コークス	317
	原料炭	352		原料炭	294

※業界情報データより作成

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、公表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したもので、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。

本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は責任を負いかねます。

お問い合わせ先

日本コークス工業

TEL 03-5560-1311

E-mail kouhou@n-coke.com